

2020「植村直己冒険賞」受賞者が決まる！



▲リウマチという病を抱えながら、自分ができるオンリーワンにチャレンジした稲葉さん

秘境の地、西ネパール
ドルポ越冬122日間

いなば かおり
稲葉 香 さん

喜びの声 (4月5日、発表会見にて)

受賞の連絡でどう表現していかびっくり

今回はこのような素晴らしい賞をいただきまして光栄に感じています。同時に私以外にもさまざまなチャレンジャーがいらっしゃる中で私を選んでいただき大変恐縮しています。

受賞の電話連絡をいただいた時は、言葉が出ないぐらい驚いて、頭の中で言葉がぐるぐる回って、自分でどう表現していいかわからないぐらいびっくりしました。その電話を切った後、しばらく放心状態で「本当に私でいいのか」とも思ったのですが、最終的に「やっぱり正直素直にうれしいな」というところに落ち着きました。ここまで来られたのは関係者の方々のお陰です。また、理解してくれる家族に感謝しかありません。本当にこのような賞をいただきありがとうございます。

4月5日(月)、2020「植村直己冒険賞」受賞者の発表会見を東京会場(アルカディア市ヶ谷)と豊岡会場(豊岡市役所)で行いました。
今回は、2020年に日本人が挑んだ116件の冒険行の中から、西ネパールにある秘境の地、ドルポ越冬122日間に挑んだ稲葉香さんが受賞されました。
本賞の授賞式は、6月5日(土)に日高文化体育館(日高町祢布)で行います。冒険賞の授与のほか、稲葉さんの講演も行われますので、皆さん、楽しみにしてください。
《問合せ》生涯学習課 ☎23-10341



▲発表会見で笑顔で記者の質問に答える稲葉さん

稲葉 香さんプロフィール

1973年5月1日、大阪府東大阪市生まれ。美容師。1997年から旅に出るライフスタイルを続ける。ベトナムから始まり東南アジア、インド、ネパール、チベット、アラスカを放浪し、旅の延長で山と出会う。18歳でリウマチを発症し、山に登るなど想像もできなかったが、ヒマラヤトレッキングにより自然治癒力に目覚め、山に登るまでに復活した。再発と復活の繰り返しの中、河口慧海師の足跡ルートに惚れ込み歩き続け、2007年西北ネパール登山隊(隊長故・大西 保さん)の遠征の参加をきっかけに西ネパールに通い始める。現在、大阪府南河内郡千早赤阪村を拠点に、都会と山生活のバランスを保ちながら、ヒマラヤに通っている。

※掲載している情報は編集時点(4月15日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。

旅を始めたきっかけ

両足を失った少年に出会い、
リウマチで落ち込んでいた
場合ではないと発奮

今回受賞した稲葉香さんは美容師で、その傍ら旅に出て訪れた先々で写真を撮っています。そのライフスタイルを20年以上続けています。旅をはじめたきっかけは18歳で発症した「難病リウマチ」と稲葉さんは語ります。リウマチの発症で生きる気力を失いかけた時、なぜか旅に出ようと思ったそうです。幾度か旅で、リウマチの痛みが和らぐ感覚があったそうです。ベトナムを訪れた時、両足を失った少年に出会いました。「リウマチくらいで落ち込んでいた場合じゃない」。稲葉さんがそれまで以上に前向きになった瞬間だったそうです。

植村直己さんからの影響

植村さんが見た同じ景色を
見たくてマッキンリー一人
旅

稲葉さんと「植村直己さん」その出会いはリウマチを発症して10年後、28歳の頃だそうです。リウマチの痛みがどんなひどくなくなり、まともに歩けない時もあり「どうしてこんな体になってしまったのか」。悔しくて泣いてばかりのある日、偶然エベレストの小説を読み、植村さんの存在を知ったそうです。



▲越冬中、隣村へ向かう稲葉さん

植村直己さんの著書を読み込み、すっかりファンになった稲葉さん。どうしても植村直己さんがアラスカで見たとのと同じ景色が見たくなり、アラスカへ出かけました。その旅は稲葉さんにとって初めての一人旅だったそうです。植村さんが登頂したマッキンリー（現在はデナリ）を遠くに

望み、改めて植村さんの人となりを感じたそうです。

すっかり山の魅力のとりこになり、単独でエベレスト街道トレッキングに挑戦。かつて植村さんが日本山岳会登山隊の一員としてエベレストに登頂した時と同じ29歳でした。



▲テェーカン村での生活。厳しい環境の中でたくましく生活している

秘境の地「ドルポ」

チベット文化が根付く厳寒の地

「ドルポ」は、西ネパール・アンナプルナ(標高8091メートル)の北西に位置するエリア、四方を標高5千メートル以上の峠で囲まれた平均高度およそ4千メートルの場所です。完全に隔離されてしまふ場所です。そこに

は村々が点在しており、今も人々が厳しい環境の中でたくましく生活しています。「ドルポ」は、かつては西ネパールに属しており、チベット文化が根付いている地域です。ドルポとの出会いは、映画「キャラバン」(2000年公開)。その後河口慧海師(※)の存在を知り、チベット側、ネパール側を行ける範囲内での行動を重ねていた稲葉さん。しかし、どうしても核心部の越境時に行きたくて、河口慧海プロジェクト登山隊(日本山岳会関西支部)の故大西 保隊長の率いるキャラバンに参加し、初めてのドルポ入りを果たするのがドルポとの出会いでした。



▲ドルポの聖なる山、シェー山へ向かう稲葉さん

オンリーワンの夢

厳寒期の人々の生活を知りたい、山々の景色を見たい

「冬、この地ドルポはどうなっているのか?」厳しい自

然環境の中、厳寒期の人々の生活は? 「山々はどんな景色を見せてくれるのだろうか?」募る思いがやがて原動力となり、稲葉さんは現地の友人達のサポートを受けながら用意周到な準備を進め、厳冬ドルポでの越冬を実現しました。

※河口慧海:僧侶、仏教学者、冒険家。明治時代、日本人として初めてチベットに入国した。

2~3

今月のイチオシ

4~5

市政ニュース

6~33

クローズアップ
豊岡

34~39

くらしの情報

40~41

保健行事

42~43

つどいの広場・
図書館

44~45

主な相談・
主な行事